

平成28年度事業報告

平成28年4月1日～平成29年3月31日

一般社団法人日本ツーバイフォー建築協会

1. 事業概況

1) 概要

平成28年度の新設住宅着工戸数は974,137戸（前年度比5.8%増）となり、二年連続の増加となった。このうち、ツーバイフォー住宅着工戸数は123,572戸（前年度比7.1%増）となり過去最高を記録し、また総着工に占めるツーバイフォー住宅のシェアも12.7%（前年度比0.2ポイント増）となり最高数値（平成26年度と同数値）となった。利用関係別でみると、持家32,160戸（前年度比0.6%増）、貸家77,457戸（前年度比11.3%増）、分譲住宅13,699戸（前年度比2.7%減）と貸家の伸びが著しかった。

また当協会による耐火構造大臣認定仕様の使用承諾件数は住宅・非住宅含めて303件（前年度比6.3%増）で、これも平成16年度に大臣認定を取得して以来の最高となり、累計は3,169件となった。

平成28年度は協会設立40周年を迎えたので、これを記念するとともにこれを機にツーバイフォー工法の認知度向上に寄与するべく諸事業に取り組んだ。まず「ツーバイフォー6階建て実大実験棟」について4月にお披露目の見学会を行政関係者、マスコミの方などを招待して開催したのをはじめとして計5回（延べ7日）見学会を実施し、計約2,200名に会場いただいた。またツーバイフォー工法に関連した歴史的建築を紹介し、ツーバイフォー建築の歴史と性能をアピールするためフランク・ロイド・ライト設計の「自由学園明日館」（東京都豊島区）において『日本のツーバイフォー建築の歴史を学ぶ—セミナー&見学会』を開催した。これらのイベントは全国ネットのテレビニュースや新聞などでもとり上げられた。これらの他、40周年記念のポスター、リーフレット等の配布を含めて、全体として支出の増大を抑えつつツーバイフォー工法の広報を推進した。

技術部門での事業としては、枠組壁工法関係告示の改正内容の逐条解説、中高層建築物の構造計算に必要な強度データ、耐火構造仕様の開口部廻り納まり方法等近年の調査研究等の成果を盛り込むべく『枠組壁工法建築物 設計の手引』『枠組壁工法建築物 構造計算指針』等の数年ぶりの改訂にとり掛かった。またこれまで各方面の協力を得つつ進めてきた実験研究の成果の一つとして、ツーバイフォー工法の高倍率耐力壁仕様を追加する告示改正に関するパブリックコメントが3月に開始された。

またツーバイフォー高層建築の実用化推進の面では、国立研究開発法人建築研究所との共同研究により「6階建て実大実験棟」における各種検証を継続実施するとともに、カナダ林産業審議会(COFI)と連携し主要構造部における2時間耐火構造の大臣認定取得を完了した。

ツーバイフォー住宅・建築の生産の合理化については、パネル製作の標準化基準の取りまとめ作業を行った。また技能者の育成等については、『枠組壁建築技能士』の資格取得を推奨し技能検定事前講習会を各支部と連携して推進するとともに、技能士資格者を明示する技能士シールを新たに制作し支部を通じて配布を開始した。

平成28年度末の当協会会員数は865社となり、前年度末対比で10社の増加となった。

2) 総会・理事会

(1) 総会

平成28年6月16日に開催された定時社員総会において、27年度事業報告及び収支決算、28年度事業計画及び収支予算並びに役員を選任について審議がなされ、いずれも原案どおり承認決議された。

(2) 理事会

理事会は本年度4回開催し、協会の業務執行に関し以下の事項等が決議された。

イ. 平成28年5月27日理事会

会員の入退会等に関する件、27年度事業報告及び収支決算に関する件、役員候補者の選任に関する件及び規程の制定に関する件が承認決議された。

ロ. 平成28年6月16日理事会

副会長の選任に関する件が承認決議された。

ハ. 平成28年11月25日理事会

会員の入退会等に関する件が承認決議され、代表理事及び業務執行理事の職務執行状況が報告された。

ニ. 平成29年3月23日理事会

会員の入退会等に関する件、平成29年度事業計画及び収支予算に関する件並びに平成29年度定時社員総会の招集に関する件が承認決議され、代表理事及び業務執行理事の職務執行状況が報告された。

3) 支部長会議・企画委員会

(1) 支部長会議

支部長会議は会長、副会長も参加して本年度3回開催された。

イ. 平成28年5月27日の支部長会議においては、各支部の27年度決算概要、熊本地震関連の対応状況等の報告と意見交換が行われた。

ロ. 平成28年11月25日の支部長会議においては、各支部エリアの住宅市場動向及び支部の活動状況等が報告された。

ハ. 平成29年3月23日の支部長会議においては、各支部の29年度事業方針と重点課題等の報告と意見交換が行われた。

(2) 企画委員会

企画委員会は本年度6回開催され、会員の入退会、事業報告及び収支決算、事業計画及び収支予算、優秀フレイマーの表彰、40周年記念事業の実施等について審議された。

4) 会員数の推移

会員の種類・区分	平成28年度末	平成27年度末	増(+), 減(△)
一種A正会員	16	15	+1
一種B正会員	46	44	+2
一種C正会員	119	121	△2
一種D正会員	321	317	+4
(小計)	502	497	+5
二種A正会員	22	22	0
二種B正会員	9	9	0
二種C正会員	97	93	+4
(小計)	128	124	+4

三種A正会員	0	0	0
三種B正会員	1	2	△1
三種C正会員	203	202	+1
(小計)	204	204	0
賛助会員	31	30	+1
合計	865	855	+10

2. 本部事業

1) 協会設立40周年記念事業

(1) 記念イベントの開催、記念制作物の配布等

「ツーバイフォー6階建て実大実験棟」について4月にお披露目の見学会を行政関係者、マスコミの方などを招待して開催したのをはじめとして計5回（延べ7日）見学会を実施し、計約2,200名に来場いただいた。

6月の総会時に記念講演会『ツーバイフォーの40年と今後の可能性』（講師：五十田京都大学教授）を開催（参加者：292名）、10月・11月にはツーバイフォー工法に関連した歴史的建築を紹介し、ツーバイフォーの歴史と性能をアピールするためフランク・ロイド・ライト設計の「自由学園明日館」において『日本のツーバイフォー建築の歴史を学ぶ一セミナー&見学会』（講師：内田神奈川大学教授）を開催した（参加者：計233名）。

また、40周年記念のリーフレット（18,000部）、ポスター（2,500部）、クリアフォルダー（2,200部）を作成、頒布するとともに、会報誌秋号を40周年記念号として「協会40年の歩みと今後の展望」などの特集記事を掲載し発行した。

(2) 協会設立40周年に関連した広報展開

記念事業の実施にあたって積極的にマスコミに情報提供等を行った結果、「ツーバイフォー6階建て実大実験棟見学会」については全国ネットのテレビニュース番組等で取り上げられ、『日本のツーバイフォー建築の歴史を学ぶ一セミナー&見学会』については一般紙も含めて記事で紹介された。

2) 総務・企画に関する事業

(1) 総務関連事業の遂行

マイナンバー制度関連規程、再雇用規程などの整備を行った。住生活月間功労者、優秀施工者国土交通大臣顕彰の推薦を行い、功労者1名、大臣顕彰4名が受賞となった。

また、27年度に会員が着工したツーバイフォー住宅及び施設系建築に関するアンケート調査を行い「ツーバイフォー建築自主統計調査」として取りまとめ、協会ウェブサイトで公開した。

(2) 会員への情報発信、広報活動の実施

協会の広報ツールやマスメディア対応の充実を図るために新たに広報委員会を設置し、40周年の広報展開や広報ツールの制作等に関し意見交換を実施し広報活動に反映させるとともに、非住宅建築物分野におけるツーバイフォー工法の多用途にわたる利用事例の紹介とさらなる活用推進を図るためにパンフレット「ツーバイフォー工法 施設系建築ガイド」の制作に着手した。

また、協会ウェブサイトのトップページを中心にリニューアルを実施し、一般消費者と事業者それぞれに向けた情報の整理とスマートフォン対応を行うとともに、技術情報や行政関係情報、イベント情報等について、会員へのタイムリーな提供を行うメールマガジンの月2回発信及び会報誌の年4回発行を引き続き実施した。

(3) 渉外活動

住宅生産団体連合会の活動に参画し、経済対策や平成 29 年度予算、税制等に関して国土交通省等への要望活動に取り組み、非耐震住宅の建替えに対する支援等を行う住宅ストック循環支援事業などが措置された。

(4) 熊本地震関連

4 月 14 日の熊本地震発生後ただちに協会内に対策本部を立ち上げ、九州支部会員の被災状況等の情報収集を行った。また、応急仮設住宅の供給等に関する当協会の協力について熊本県庁に申し出を行った。

住宅の被害状況について現地調査を含めて情報の把握に努めるとともに、会員が供給した住宅の被害状況についてアンケート調査を実施し、集計結果を協会ウェブサイトにて公表した。アンケート結果では、全半壊はゼロであるなどツーバイフォー住宅の耐震性能の高さを確認することができた。

3) 技術の普及に関する事業

(1) 『枠組壁工法建築物 設計の手引』等の改訂

枠組壁工法関係告示の改正内容の逐条解説、中高層建築物の構造計算に必要な強度データ、1 時間耐火構造仕様の開口部廻り納まり方法等近年の調査研究等の成果を盛り込むべく『枠組壁工法建築物 設計の手引』、『枠組壁工法建築物 構造計算指針』及び『枠組壁工法 耐火建築物 設計・施工の手引』の改訂に着手した。

(2) 大規模・中層建築物に関するセミナー等の開催

ツーバイフォー工法で初めての 5 階建て特別養護老人ホーム (1 階 RC、延床面積 9,000 m² 超) の完成見学会を 5 月に実施した (東京都足立区、参加者 60 名)。またツーバイフォー中高層・大規模建築物の先進事例をもとに設計・施工のノウハウ等を学ぶセミナーを 9 月に実施した (会場：東京都港区、参加者 73 名)。

「ツーバイフォー 6 階建て実大実験棟見学会」を 5 回 (延べ 7 日) にわたり開催するとともにカナダ政府関係者等の視察団、アメリカの木材業界団体、国内の住宅産業団体や森林・木材関係者団体等の視察に対応し、計約 2,200 名の方が実験棟を見学した。

4) 技術基準の整備等に関する事業

(1) 技術基準等の整備

建築基準法に基づく国産材の枠組壁工法構造用製材の基準強度の設定等に対応した強度データや中高層建築物の構造計算に必要な強度データの収集、整備を行った。

(2) 住宅・建築生産の合理化の推進

建築実績を積み重ねてきているツーバイフォー工法 4 階建ての構造計算ルートの見直し・緩和 (ルート 3: 保有水平耐力計算⇒ルート 2: 許容応力度等計算) を図るため、建築研究所と共同で中層建築物の構造計算の現状調査を行うとともに、構造計算方法の現状分析やシミュレーション結果を取りまとめ、国土交通省の建築基準整備促進事業に課題提案を行い、平成 29 年度事業の課題に採用されることとなった。

(3) 設計業務効率化の支援

設計業務の効率向上を支援するために、計算ソフト「らくわく」の機能の向上、ユーザーインターフェイスの改善を継続実施した。

5) 技術の研究開発に関する事業

(1) 木造高層建築の実用化に向けた技術の研究開発の推進

2 時間耐火構造について、前年度の間仕切壁及び床の国土交通大臣認定取得に引き続き、9 月に外壁及び界壁の性能評価試験を実施し大臣認定を取得した。これにより主要構造部 (床・

外壁・間仕切り壁・界壁)の2時間耐火構造大臣認定が出揃った。

また、建築研究所との共同研究による6階建て実験棟の各種検証を実施するとともに、林野庁平成28年度委託事業の採択を受け開口部廻り、区画貫通部等の2時間耐火性能確認試験及び施工検証を実施した。

(2) 中大規模建築技術の開発・検証

中大規模建築物等の生産の合理化に資するためにパネル製作の標準化基準の取りまとめ作業を行った。

また、農林水産省の「『知』の集積と活用場による研究開発モデル事業」に採択された研究課題「複合部材を活用した中層・大規模ツーバイフォー建築の拡大による林業の成長産業化」(5年計画)に参画し、その初年度としてツーバイフォー中層大規模建築における現状の課題等に関する調査を実施した。

6) 設計・施工の品質向上等に関する事業

(1) 施工品質確保の推進

ツーバイフォー工法の建て方工事技能者の国家資格である「枠組壁建築技能士」の資格取得を推奨し、各支部と連携して技能検定の事前講習会を各地で開催し、28年度は72名の合格者(前年度比6%増)となった。また新たに「枠組壁建築技能士」を表示するヘルメットシールと技能士制度の解説チラシを制作し、支部を通じて頒布した。

耐火建築物等の品質向上のため、9月に4階建て共同住宅の工事中現場を調査し耐火建築の施工上の留意点を取りまとめた。

(2) リフォーム事業の推進

住宅ストック・リフォーム関連の支援制度や補助金に関する情報を発信し、活用促進を図った。また、協会ウェブサイトのリフォーム掲載情報の見直しを行い、リフォーム事例等の内容を充実させた。

(3) 労働安全衛生活動の推進

労働災害撲滅を目指し、労働災害発生状況報告書を作成した。また、7月と12月に工事中現場安全調査を実施し、5月には熱中症対策、12月には墜転落防止の安全ポスターを制作し、会員に頒布した。

(4) 国際的活動による情報収集・発信

枠組壁工法に関する海外の最新事例や技術開発状況を収集し発信するために、9月にカナダのモントリオールにて開催の日米加建築家専門会議(通称BEC)に参加した。

また、11月にはカナダ・ブリティッシュコロンビア州政府森林・土地管理担当大臣他の視察団による6階建て実験棟見学後に情報・意見の交換を行った。

7) 環境対策に関する事業

(1) 環境行動計画に基づく省エネ対策等の推進

環境対策の取組みの充実を図るため、住宅建築事業者としての環境行動についてその内容、質に関する自己評価チェックリストを盛り込んだ「第三次環境行動計画」をスタートさせた。

また、省エネルギー基準の周知・普及のための講習会等を実施し、会員への技術情報の提供を推進した。

(2) 廃棄物適正処理の普及・啓発

住宅生産団体連合会等が実施する講習会への参加や処理施設見学の実施等により、会員各社の建築材の適正処理やリサイクルを推進した。

8) 部資材に関する事業

(1) 関連部資材の調査・研究と情報の発信

協会ウェブサイト「部資材ホットリンク」、「コンポーネント会社情報」の新規掲載、更新を継続するとともに、各種勉強会の開催により建築会社や設計事務所等へ関連部資材の情報を提供した。

(2) 木造公共建築物等におけるツーバイフォー工法の活用推進

ツーバイフォー工法による木造公共建築物等の普及を、地域ニーズに根ざした地域材の活用も図りつつ推進するため、2月に仙台と宮崎にてセミナー「ツーバイフォー工法で施設建築を建てる ―地域材も利用して」を開催した。

また、当協会に取りまとめた資料「ツーバイフォー工法による非住宅分野での建築のおすすめ～木材利用の新たな取り組みに向けて～」が、林野庁木材産業課を通じて全国都道府県の林務部門担当者会議にて配付活用された。

9) 瑕疵保証に関する事業

(1) 団体保険利用会員の拡充

メールマガジンや会報誌にて団体保険のメリットを告知した。平成28年度の保険契約件数は、6,345戸となった。また、団体検査員の定期的な監査を継続実施した。

(2) 瑕疵担保責任保険住宅の検査員育成

瑕疵担保責任保険住宅の現場審査を行う検査員のための資格登録講習会を開催し、全国で307名の方が参加した。

10) 講習会等に関する事業

会員向けサービスの向上やツーバイフォー工法の認知度向上等を目指し、平成28年度は講習会・セミナーを24講座、延べ72回開催した。

イ. 工法普及講習会

会員以外にも広く受講を呼び掛け、ツーバイフォー工法への理解・普及、工法認知度向上を目的とした工法普及講習会は、今年度6講座、15回開催し参加者503名であった。

ロ. 資格・認定取得講習会

耐火構造大臣認定の使用資格者登録ができる「木造耐火構造技術基準講習会」を全国6都市で延べ10回開催し、品質確保に必要な「自主工事検査員等登録講習会」を9都市で延べ11回開催した。その結果、平成28年度の検査員登録者761名、内訳は自主工事検査員55名、耐火設計工事監理者399名、団体+耐火検査員307名であった。

ハ. ステップアップ講習会

会員の職務経験・能力に応じたスキルアップを図るための講習会について、本年度は初級設計講習会、設計実務者講習会、構造計算入門セミナー、施工技術者講習会等を全国4都市で延べ17回開催し324名の参加があった。

ニ. Webセミナー

Webを利用し受講場所や日程の制約を受けることなく参加できるWebセミナーについて、今年度は構造計算入門および新・構造計算法に関するセミナーを開催した。

■工法普及講習会

講習会名	開催数	受講者数	内容
ツーバイフォー工法基本講習会	1回	49名	新人設計担当および工事、資材等の技術担当向けのツーバイフォー工法の基本知識を習得する講習会

ツーバイフォー工法 施工技術者講習会	3回	72名	工事管理者、工事担当者を対象としたツーバイフォー工法の技術基準および品質管理、工事管理のポイントを解説する講習会
らくわく構造計画講習会	5回	25名	4号建築物の設計支援ソフト「らくわく」を教材として、ツーバイフォーを設計する上で重要なポイントを解説しながら、「らくわく」入力時における注意点をわかりやすく解説する講習会
ツーバイフォー大規模・ 中層建築セミナー	1回	73名	ツーバイフォー工法で大規模建築物を設計し、建築してもらう為の新規需要の開拓を目的としたセミナー
日本のツーバイフォー建築 の歴史を学ぶ	2回	206名	明治以降のツーバイフォー工法の導入の歴史を学び、歴史的建物である自由学園明日館を見学するセミナー
学生向けセミナー	3回	78名	ツーバイフォー工法の建築現場で躯体を見ながら学び、コンポーネント工場加工ラインを見学するセミナーおよび学校へ出向く出前講座（座学・実習）を行う講習会
計（6講座）	15回	503名	

■資格・認定取得講習会

講習会名	開催数	受講者数	内 容
木造耐火構造技術基準 講習会	10回	399名	耐火建築物の設計の注意点、設計基準に関する講習で設計者及び工事監理者の資格登録のための講習会。
自主工事検査員等資格 登録講習会	11回	362名	品質確保に必要な自主工事検査、木造耐火建築物の現場検査、瑕疵担保責任保険住宅の1回目現場検査を行う検査員のための資格登録講習会
計（2講座）	21回	761名	

■ステップアップ講習会

講習会名	開催数	受講者数	内 容
初級設計講習会（全3回）	2回	37名	ツーバイフォー工法の実務経験2年未満の設計担当者向けの、構造の概要、設計ルール（告示内容）、プランチェック等、全3回の講習会
初級設計らくわく講習会	1回	3名	計算ソフト「らくわく」を使った壁量計算、横架材の断面算定、基礎鉄筋量算定をする講習会
設計実務者講習会Ⅰ 〈耐力壁と壁線の設計〉	3回	58名	設計担当者（ツーバイフォーの実務経験1年以上）を対象とした、耐力壁線のずれ等について解説する講習会
設計実務者講習会Ⅱ 〈床の設計〉	3回	49名	設計担当者（ツーバイフォーの実務経験1年以上）を対象とした、床開口等について解説する講習会

設計実務者講習会Ⅲ 〈床根太、床梁、まぐさの設計〉	1回	13名	設計担当者（意匠系）を対象とした、構造計算の基礎知識および単純梁、床根太、床梁、まぐさ等の横架材の計算演習を行う講習会
設計実務者講習会Ⅳ 〈基礎の設計〉	1回	20名	設計担当者（意匠系）を対象とした、基礎の一般知識とべた基礎等の計算方法についての解説および計算演習を行う講習会
設計実務者講習会Ⅴ 〈地盤の基礎知識と調査〉	1回	14名	住宅の地盤についての基礎知識と地盤調査報告書の見方について解説する講習会
施工技術者講習会Ⅰ 〈材料・くぎ打ち・建て方〉	1回	31名	工事管理者、工事担当を対象とした材料・くぎ打ち基準等を解説する講習会
施工技術者講習会Ⅱ 〈防水・断熱等〉	1回	23名	工事管理者、工事担当を対象とした防水・断熱等を解説する講習会
施工技術者講習会Ⅲ 〈CS・安全講習会〉	1回	12名	大工、職人、工事担当を対象とした安全とCSの講習会
足場の安全講習会	1回	48名	工事担当、大工技能者を対象とした足場組立等作業者特別教育の講習会
大工技能者育成講習会 技能検定事前講習会	1回	16名	枠組壁建築技能検定を受検する大工技能者のための事前講習会
計（12講座）	17回	324名	

■Webセミナー

講習会名	開催数	受講者数	内 容
構造計算入門 Webセミナー（全10回）	10回	45名	構造計算法（許容応力度Ⅰ）の基本を習得することを目的とした構造計算の入門的なWebセミナー
新・構造計算法 Webセミナー1	3回	41名	ツーバイフォー工法の概要、材料、告示と「構造計算指針」事例計算書を解説するセミナー
新・構造計算法 Webセミナー2	3回	33名	壁倍率によらない許容応力度計算等を解説するセミナー
新・構造計算法 Webセミナー3	3回	23名	ルート2とルート3の計算（剛性率、偏心率、保有水平耐力の計算等）を解説するセミナー
計（4講座）	19回	142名	
合計（24講座）	72回	1,730名	

3. 支部事業

1) 北海道支部

(1) 支部方針

平成 28 年度は支部主催による会員向けセミナー・講習会の開催及び支部 PR のラジオ CM の実施、業界紙、一般向け広告媒体への支部広告掲載などを行い、あわせて本部主催講習会へのサポート、札幌高等技術専門学院のインターンシップ受入等、支部活動の活性化とツーバイフォー工法のさらなる普及拡大に向けて積極的に事業を展開した。

(2) 総務・広報活動に関する事業

総会、幹事会等の運営

①平成 28 年第 4 回定時支部総会 平成 28 年 5 月 17 日

②支部幹事会

第 1 回 平成 28 年 4 月 15 日

第 2 回 平成 28 年 10 月 14 日

③新年賀詞交歓会

平成 29 年住宅二団体合同新年賀詞交換会(平成 29 年 1 月 13 日 札幌全日空ホテル)

主催 (一社) 日本ツーバイフォー建築協会北海道支部

(一社) プレハブ建築協会北海道支部

(3) 工法普及に関する事業

協会及び支部活動 PR (一般ユーザー向け他)

①4 月: ラジオ CM 実施 STV ラジオ、AIR-G

②5 月: 住まいの税金ガイド (平成 28 年度版) 正会員へ無償配布

③6 月: 協会本部創設 40 周年記念ポスター 会員へ無償配布

④6 月: 6 階建て実大実験棟「建築工程のご紹介 DVD」会員へ無償配布

⑤9 月: 北海道新聞 住宅広告特集 (道央版) 掲載

⑥1 月: 北海道新聞発行 北海道発 ONLY ONE の家づくり 支部広告掲載

(4) 講習会等開催に関する事業

本部と連携しての講習会等の実施

①5 月 19 日 支部主催: ツーバイフォーリフォームセミナー

②6 月 23 日 支部主催: ツーバイフォー工法技術基準講習会

③7 月 21 日 支部実務者会議 (支部主催): 札幌にて開催 本部及び 8 支部参加

④8 月 4 日 ◇支部主催: ツーバイフォー 6 階建実大実験棟説明会

⑤8 月 25 日 ◇支部主催: 実例から学ぶ大型木造建築の設計と施工監理のポイント

⑥3 月 16 日 ◇支部主催: 自主工事検査員等登録講習会

(5) 関係機関

①9 月 2 日 枠組壁建築技能検定実技試験 (北海道職業能力開発協会への協力)

②7 月 12 日 平成 28 年度第 1 回きた住まいる推進会議出席 (道庁建設部住宅)

③9 月 20 日 建設工事追込期労働災害防止運動連絡会議出席 (北海道労働局労働基準部)

④2 月 1 日 平成 28 年度第 2 回きた住まいる推進会議出席 (道庁住宅局)

⑤2 月 15 日 きた住まいる推進会議戸建ワーキング出席 (道庁住宅局)

2) 東北支部

(1) 総務広報関係 (広報部会)

①協会設立 40 周年記念行事の開催

②東北支部ホームページでの情報発信・施工事例写真掲載

(2) 講習会等事業（技術部会）

①施工技術・安全講習会

- ・南東北エリア 福島会場 : 19名参加 9月10日
- ・北東北エリア 秋田会場 : 14名参加 10月15日

②木造耐火構造技術基準講習会 : 14名参加 1月20日

③自主工事検査員等登録講習会 : 15名参加 1月21日

④枠組壁工法技能検定に向けた技術講習 : 9名参加 7月14日

⑤リフォームセミナー : 33名参加 6月30日

⑥40周年記念講演会省エネルギーセミナー

- ・南東北エリア 仙台会場 : 41名参加 11月28日
- ・北東北エリア 盛岡会場 : 35名参加 11月18日

⑦枠組壁工法技能検定

- ・学科・実技ペーパーテスト : 9名参加 9月4日
- ・実技作業試験 : 9名参加 8月24日

⑧足場作業従事者の足場特別講習会 : 15名参加 2月18日

⑨職長教育研修 : 15名参加 3月18日

(3) 会議関係

- ①三役会・部会長会議 6/17(金)、2/10(金)
- ②幹事会・部会長会議 7/15(金)、10/14(金)、3/17(金)

3) 北陸支部

(1) 支部総会・役員会等の開催等

①支部総会・役員会

北陸支部総会 平成28年5月20日 ANAクラウンプラザホテルにて開催
平成27年度事業報告、収支決算書の承認について
平成28年度事業計画(案)、収支予算書(案)の承認について
《12社出席・3社欠席》

②第1回役員会 平成28年6月8日 (株)創建社にて開催

平成28年度講習会等について
協会設立40周年記念事業(6階建実験棟見学)について

③第2回役員会 平成29年2月15日 ANAクラウンプラザホテルにて開催

平成29年度活動予定について

(2) 支部会員の推移

	平成28年4月現在	平成29年4月現在	増減
一種C正会員	3社	3社	
一種D正会員	5社	4社	△1社
二種A正会員	1社	1社	
二種B正会員	2社	2社	
二種C正会員	2社	2社	
三種正会員	1社	1社	
賛助会員	1社	1社	

平成29年4月現在 全会員数 14社

- (3) 総務・広報に関する事業
北陸三県発行の「家づくりナビ」に出稿
内容：ツーバイフォー工法の利点等を説明し、これから新築をお考えの方々に
ツーバイフォー住宅という選択肢を提案した
- (4) 講習会に関する事業
平成 28 年 6 月 19 日 枠組壁技能検定事前講習会
(株) OSCAR J.J 婦中工場
6 名受講
※枠組壁技能検定 平成 28 年 7 月 3 日に実施
平成 28 年 10 月 6 日 自主工事検査員等登録講習会
富山問屋センター流通会館
5 名受講
その他 協会設立 40 周年記念事業として
平成 28 年 7 月 12 日 6 階建実験棟見学 15 名参加

4) 静岡県支部

(1) 支部総会・定例会等の開催等

①支部総会・定例会

- 第 4 回社員総会 平成 28 年 5 月 26 日(木) 浮月楼にて開催
平成 27 年度事業報告、収支決算書の承認について
平成 28 年度事業計画(案)、収支予算書(案)の承認について
《10 社出席・7 社欠席》
講演会「今、求められている住宅とは、売れる住宅営業とは…」
講師：岡田和芳氏(有エイチアンドエスコンサルタント代表)
《42 名参加》

②支部会員の推移

	平成 28 年 5 月現在	平成 29 年 5 月現在	増 減
一種 A 正会員	1 社	1 社	
一種 B 正会員	1 社	1 社	
一種 C 正会員	2 社	2 社	
一種 D 正会員	7 社	1 1 社	+ 4 社
二種 C 正会員	2 社	5 社	+ 3 社
三種 C 正会員	3 社	2 社	△ 1 社
計	1 6 社	2 2 社	+ 6 社

(2) 総務・広報に関する事業

- 平成 28 年 7 月 16 日～18 日
静岡県住まい博 2016
《会場》ツインメッセ静岡北館
静岡県住宅振興協議会実行委員会のスタッフとして会場運営の支援
2017 年は開催中止

(3) 工法普及活動に関する事業

- 平成 28 年 4 月 20 日
ツーバイフォー 6 階建実大実験棟完成見学会視察
茨城県つくば市 建築研究所敷地内
10 名参加

(4) 住宅対策に関する事業

静岡県応急仮設建設協議会

平成 28 年 11 月 1 日 第 1 回会議 静岡県庁

- ・協議会についての説明
- ・応急仮設供給予定数
- ・協議会 500 戸×6 ヶ月 3,000 戸
- ・プレハブ協会 50,000 戸(6 ヶ月)

平成 29 年 1 月 31 日 第 2 回会議 静岡県庁

- ・連絡網の作成
- ・主幹事会社について
- ・静岡県仕様について など

平成 29 年 3 月 22 日 第 3 回会議 静岡県庁

- ・協議会体制図について
- ・登録リストについて
- ・今後のスケジュール案について など

(5) 講習会に関する事業

平成 28 年 5 月 19 日 足場の安全講習会
グランシップにて開催
49 名参加

平成 28 年 7 月 10 日 技能検定実技試験事前講習会
片瀬建設(株)大井川工場
4 名参加 内 3 名合格
講師 田井俊作氏

平成 28 年 8 月 7 日 技能検定実技試験
静岡職業訓練支援センターにて開催
受検者 6 名
合格者 4 名、学科のみ合格 1 名

平成 28 年 11 月 18 日 地震セミナー
熊本地震から学ぶ、地震に強い家とは
グランシップにて開催
参加者 51 名
講師 (株)M's 構造設計 佐藤 実氏

平成 29 年 3 月 13 日 自主工事検査員等登録講習会
自主工事検査員、耐火構造検査員等の新規登録
及び更新の講習会
グランシップにて開催
受講者 16 名
講師 (株)東急ホームズ 大江 任氏

5) 東海支部

(1) 支部運営方針

ツーバイフォー工法が合理的で安心できる工法であることは、広く認知してもらいつつあると思われるが、この先は増税や人口減少など、取り巻く環境としては厳しいものが予想される。中層や大規模建築物に進出し、住宅だけでなく公共施設を含め、実績を伸ばしていくという次のステージに進まなければならない。

再生可能循環資源の利用という観点からも、ツーバイフォー工法は期待されており、これ

に十分応えることができるよう、その発展、認知度の向上を目指した。

(2) 重点課題

協会設立 40 周年記念事業として、「大規模・中層建築セミナー」を開催し、多くの会員、一般の方々に情報発信を行った。また、建築関連専門展示会「第 46 回建築総合展 NAGOYA 2016」に出展し、ビジネスと情報交流の促進に努めた。さらには実務に即した講習会等で工法の普及、施工技術力の向上、さらには新規入会会員の獲得を目指した。

(3) 総務・広報に関する事業

①平成 28 年度支部定時総会、講演会を開催した。

平成 29 年新年賀詞交歓会を開催した。

第 240 回～第 246 回幹事会を開催した。

②「大規模・中層建築セミナー」、「建築総合展」、各種講習会等にて新規入会会員を勧誘し、会員の拡大に努めた。

③愛知ゆとりある住まい推進協議会、愛知県建築物安全安心マネジメント協議会、愛知県建築開発等行政推進協議会等地域行政機関主催による各種会議へ参画し、事業協力を行った。

④地域行政機関及び他団体の主催する講習会の開催などに関し、情報伝達を行った。

(4) 工法普及に関する事業

①協会設立 40 周年記念事業として、「大規模・中層建築セミナー」、「第 46 回建築総合展 NAGOYA2016」への出展を行った。

②木造耐火構造技術基準講習会を開催した。

③枠組壁建築技能検定試験を受託した。

(5) 技術開発・普及等に関する事業

①本部と連携し、「大規模・中層建築セミナー」を開催した。

(6) 講習会に関する事業

①工法普及関係講習会として「大規模・中層建築セミナー」、「ツーバイフォー工法技術基準講習会」を開催した。

②資格登録講習会として「木造耐火構造技術基準講習会」、「自主工事検査員等登録講習会」を開催した。

③「設計実務者講習会Ⅱ」、「大工育成講習会」講習会を開催した。

④支部企画の講習会として、「つくば 6 階建て実験棟見学会」、資材流通研修会を開催した。

6) 関西支部

(1) 支部総会等の開催

①支部総会 平成28年度第4回定時社員総会 (5月17日、建設交流館)

②支部幹事会1回 (9月10日)

③支部会員 1種60社、2種24社、3種13社、特別協力会員3社 計100社

(2) 需要開発委員会

①地方自治体等の各種事業への参加・協賛・協力

・(財)大阪府都市整備推進センターのまちづくり事業に参加

・大阪都市景観建築賞(大阪まちなみ賞)に協賛

・大阪建築物震災対策推進協議会に参加

・大阪府職業能力開発協会に加盟

・(独)住宅金融支援機構主催「住宅事業者フォーラム近畿」講演会参加(11月10日)

・日本ツーバイフォーランバーJAS協議会が主催する選別格付競技大会見学(3月10日)

②研修会

・「熊本地震の報告会」を三団体共催にて開催 (11月1日)

(3) 会員活動委員会

①委員会開催 5回 5月17日・7月14日・10月7日・12月8日・3月17日

②講習会等事業

- ・技能検定試験合格者等を総会懇親会にて表彰
- ・ツーバイフォー工法基本セミナーを6月23日に開催
- ・ツーバイフォー工法基本セミナーⅡを11月11日に開催
- ・ホームページにて情報発信

(4) 技術委員会

①委員会開催 6回 5月17日・6月16日・8月25日・10月7日・12月8日・3月17日

②講習会等事業

講習会等事業名	開催日	申込人数	内 容
枠組壁建築技能検定試験 事前講習会	8月8日	10名	技能検定試験受験のための講習会
枠組壁建築技能検定実技試験	8月21日	18名	技能検定実技試験の実施（合格者11名）
木造耐火技術基準講習会	1月24日	44名	耐火建築物の設計の注意点等に関する講習で設計および工事監理者の資格登録のための講習会
「今さら聞けないZEHの ポイント」セミナー	2月6日	50名	補助金の手続きやお客様への説明などをその道のプロが説明するセミナー
自主工事検査員等登録講習会	2月24日	26名	検査員登録資格取得のための講習会

7) 広島県支部

(1) 支部総会・幹事会等の開催

- ① 定時支部総会 (H28/5/10)
- ② 支部幹事会 5回開催 (H28/5/10、H28/7/8、H28/10/4、H28/12/2、H29/3/14)
- ③ 新年互礼会 (広島県住宅産業四団体協議会主催：H29/1/26)
- ④ 支部会員数：H 28 年度末 20 社

(2) 総務・広報活動に関する事業

- ①広島県住宅産業四団体協議会及び関係官庁等の事業活動に継続して協力した。
 - イ. ひろしま住まいづくり支援ネットワーク会議 (H28/5/31)
 - ロ. ひろしま住生活月間実行委員会運営委員会 (H28/5/31、H28/8/29、H28/10/20、H29/1/12)
 - ハ. ひろしま住生活月間実行委員会総会 (H 28/8/29)
 - ニ. 広島県「減らそう犯罪」推進会議・幹事会 (H 28/10/31、H 28/11/14)
 - ホ. 広島住まいづくり連絡協議会 (H28/7/15)
 - ヘ. 広島県低層住宅建築工事安全対策協議会 (H28/11/8)
- ②牛田住宅情報スクエア「アスタ」開設 15 周年記念大感謝祭 (H28/4～6) の共催
- ③広島県支部設立 40 周年記念事業を広報委員会等にて検討
 - イ. 広報委員会 (H28/4/22、H28/6/3、H28/8/23、H29/2/17)

(3) 工法普及活動に関する事業

- ①「住まいの情報プラザ」開催の支援 (H28/10/28～10/29)
住宅相談、耐震模型実演、防災関連模型・パネル・避難セット展示場等
- ②枠組壁建築技能検定試験実行委員会 (H28/4/5、H28/7/12)

(4) 技術関係等に関する事業

①労働安全衛生に関する活動を実施

イ. 広島県建築安全安心マネジメント推進協議会 (H28/6/24)

(5) 講習会等に関する事業

①枠組壁建築技能検定講習会 (H28/8/19、H28/8/23、H28/8/27、H28/8/28) 受講者 8 名

②枠組壁建築技能検定試験 (H28/9/3~4) 合格者 7 名

③「自主工事検査員等登録講習会」(H29/2/14) 受講者 15 名

④「木造耐火構造技術基準講習会」(H29/3/7) 受講者 15 名

8) 四国支部

(1) 概要

平成 28 年度もまた、地域型住宅グリーン化事業に参加し、昨年度より 12 棟多い 29 棟の配分を得た。交付申請に至ったのは 26 棟。補助金額の合計は 2,895 万円であった。重点課題としていたフレーマー不足の解消対策としては、高校生を対象とした大工育成講習会を全国で初めて徳島県立科学技術高校で開催し、学校や生徒から好評を得ることができた。地元テレビ局 2 社から取材放映されるなどもあり、宣伝効果も多大に得られた。もう一つの重点課題としていた、四国初の枠組製材 JAS 認定工場の誕生については、一事業者が現在取得に向かって申請を進めている状況であり、平成 29 年度中に認定を受けられる可能性が高くなった。

(2) 支部会等

①平成 28 年度支部総会 : 5 月 13 日 徳島ワシントンホテルプラザ

②平成 28 年度地域型住宅グリーン化事業

グループ「ツーバイフォー四国の家」説明会及び抽選会
: 8 月 2 日 川之江文化センター

(3) 講習会等に関する事業

①学生を対象とした大工育成講習会

: 9 月 6 日~9 月 8 日 徳島県立徳島科学技術高等学校

(4) 総務・広報に関する事業

①地域型住宅グリーン化事業への参加

平成 28 年度地域型住宅グリーン化事業の当グループ(「ツーバイフォー四国の家」)の補助金申請状況は次の通りである。

長寿命型住宅(制限あり)	7 棟	740 万円
長寿命型住宅(制限なし)	10 棟	1,010 万円
認定低炭素住宅	2 棟	200 万円
性能向上計画認定住宅	2 棟	230 万円
ゼロ・エネルギー住宅	3 棟	495 万円
☆補正予算実施枠		
長寿命型住宅(制限なし)	2 棟	220 万円
合計	26 棟	2,895 万円

②ウェブサイトの運営

ウェブサイトの運営を継続実施している。

(5) 会員の推移

会員の種類・区分	平成28年4月	平成28年度末	増減
一種A正会員	0社	0社	0社
一種B正会員	0社	0社	0社
一種C正会員	9社	8社	△1社
一種D正会員	5社	6社	+1社
(小計)	14社	14社	0社
二種A正会員	0社	0社	0社
二種B正会員	0社	0社	0社
二種C正会員	2社	3社	+1社
二種C準会員	1社	1社	0社
(小計)	3社	4社	+1社
三種正会員	7社	8社	+1社
賛助会員	0社	0社	0社
計	24社	26社	+2社

9) 九州支部

(1) 支部運営方針

ツーバイフォー工法の認知度向上・基本性能の訴求・九州地区におけるシェア拡大を目指し、会員へのサービス向上を図る。

(2) 重点課題

①認知度向上のための事業推進

②枠組壁建築の技能士育成・・・合格者4名

③優秀フレーマーの育成に努め、毎年1名は受賞者推薦を行う・・・1名受賞

④会員間の情報交換と新規会員の入会促進・・・懇親会など実施

(3) 総務・広報に関する事業

①協会設立40周年記念事業の実施・・・ノベルティを作成し会員等に配布

(4) 工法普及に関する事業

「枠組壁建築技能検定」の実施

(5) 技術開発・普及等に関する事業

「ツーバイフォー工法技術基準講習会」の実施

(6) 講習会に関する事業

①自主工事検査員等登録講習会の実施

②木造耐火構造技術基準講習会の実施

③技能検定実技試験事前講習会の実施

以上